

金沢大学概要

OUTLINE OF KANAZAWA UNIVERSITY

2022

目次

金沢大学憲章	3
沿革・組織	4
教育研究組織	8
学士	8
融合学域	8
人間社会学域	8
理工学域	9
医薬保健学域	10
国際基幹教育院	10
大学院	11
人間社会環境研究科	11
自然科学研究科	11

医薬保健学総合研究科	13
先進予防医学研究科	13
新学術創成研究科	13
法学研究科	14
教職実践研究科	14
別科	14
附属施設・学内共同教育研究施設等	15
その他の施設等	20
データ	21
役職員	22
財務状況	25
学域・学類・研究科等	26
学生	28
学生数	28
入学志願者および入学状況	31
卒業者・修了者数(学位授与数)および進路状況	32
国際交流	34
科研費・外部資金受入等	41
附属病院	42
附属図書館	43
キャンパス等	44
土地・建物および所在地	44
建物配置図	46
キャンパス配置図	50

金沢大学概要2022



角間キャンパス 2021年5月撮影

金沢大学憲章

人類は長い歴史の中で、創造と破壊を繰り返しながらも自然及び社会の諸現象に対する理解を深め、公共性の高い文化を育んできた。学術研究を預かる大学は、知の創造と人材の育成をもって世代を繋ぎ多様な社会の形成と発展に貢献してきた。そして世界は今や国家の枠を越え、多くの人々が地球規模で協同する時代を迎えていた。

前身校の歴史を引き継ぎ1949年に設立された金沢大学は、戦後の激動の時代を歩み、我が国と世界の発展に一定の役割を果たしてきたが、国立大学法人となるこの機会に、「社会のための大学」とは何であるかを改めて問い合わせなければならない。

金沢大学は、本学の活動が21世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組むこととし、その拠って立つ理念と目標を金沢大学憲章として制定する。

教 育

- 金沢大学は、各種教育機関との接続、社会人のリカレント教育、海外からの留学、生涯学習等に配慮して、多様な資質と能力を持った意欲的な学生を受け入れ、学部とそれに接続する大学院において、明確な目標をもった実質的な教育を実施する。
- 金沢大学は、学生の個性と学ぶ権利を尊重し、自学自習を基本とする。また、教育改善のために教員が組織的に取り組むFD活動を推進して、専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成する。

研 究

- 金沢大学は、真理の探究に関わる基礎研究から技術に直結する実践研究までの卓越した知の創造に努め、それらにより新たな学術分野を開拓し、技術移転や産業の創出等を図ることで積極的に社会に還元する。
- 金沢大学は、人文社会、自然科学及び医学の学問領域や、基礎と応用など研究の性格にかかわらず、構成員が学問の自由と健全な競争をもって主体的に研究を進める環境を整備する。また、萌芽的研究や若手研究者の育成に努め、常に新しさに挑戦し個性を引き出す体制を維持する。

歴代学長一覧

初代	戸田 正三	1949.9.22～1961.9.21
第2代	石橋 雅義	1961.9.22～1967.9.21
第3代	中川 善之助	1967.9.22～1973.9.21
第4代	豊田 文一	1973.9.22～1979.9.21
第5代	金子 曽政	1979.9.22～1985.9.21
第6代	本陣 良平	1985.9.22～1989.9.21
第7代	青野 茂行	1989.9.22～1993.9.21
第8代	岡田 晃	1993.9.22～1999.9.21
第9代	林 勇二郎	1999.9.22～2008.3.31
第10代	中村 信一	2008.4.1～2014.3.31
第11代	山崎 光悦	2014.4.1～2022.3.31
第12代	和田 隆志	2022.4.1～

社会貢献

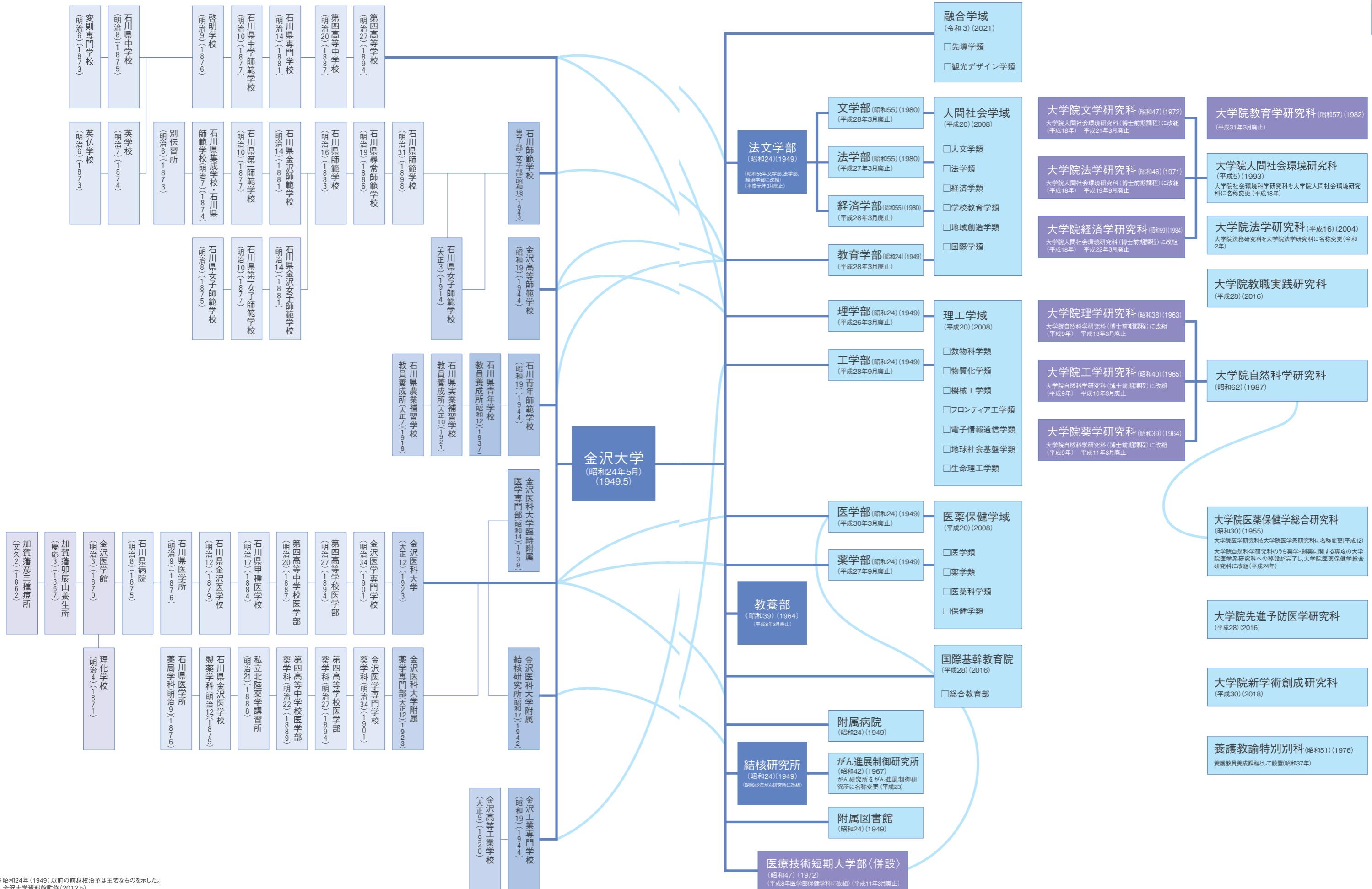
- 金沢大学は、本学の有する資源を活用し、地域における学術文化の発展と教育・医療・福祉等の基盤づくりに貢献し、北陸さらには東アジアにおける知の拠点として、グローバル化の進む世界に向けて情報を発信する。
- 金沢大学は、入学前から卒業後に及ぶ学生教育の拡大、研究成果である知的財産の発掘・管理と社会への積極的な還元、さらには高度先端医療の発展と普及に努め、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の責務に応える。

運 営

- 金沢大学は、それぞれの部局が専門性と役割に基づき独自性を發揮しつつ、全学的にそれらを有機的に連携させ、自主的・自律的に運営する。また、計画の達成度を評価し、組織・制度の見直しを含めて不断の改革を進める。
- 金沢大学は、国からの交付と自己収入から成る資金を厳格かつ計画的に活用するとともに、人権を尊重し、すべての構成員が職務に専念できる安全な環境を提供する。また、公共に奉仕する国立大学法人としての社会的な説明責任に応える。

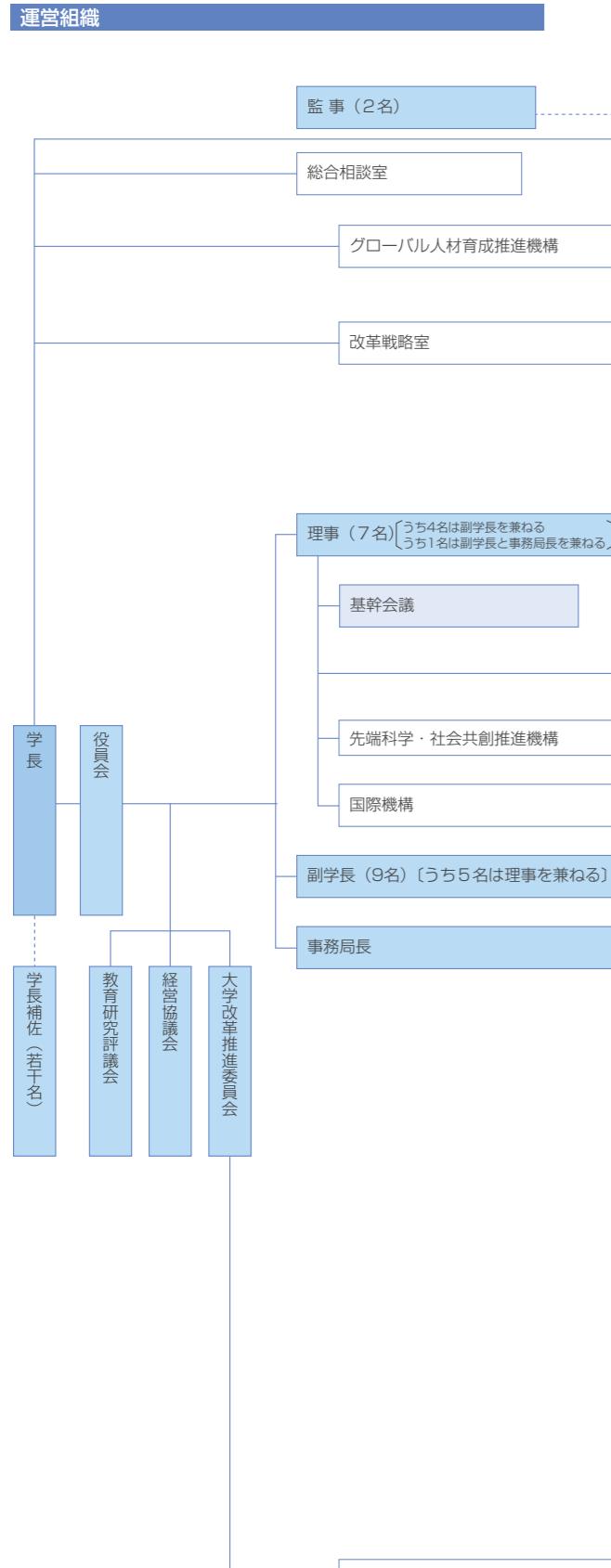
沿革

沿革・組織



組織

沿革・組織



教育研究組織

未来創成教育環

学修者本位教育への転換と「自ら学び、自ら育む」教育環境を提供

学長による直接的なガバナンス体制の下で、全学の教育組織を統括してその改革を推し進め、本学教育改革の抜本的飛躍を担う組織です。高大院接続・入試改革やダイバーシティ教育環境の構築、文理融合型教育の推進等、本学のこれまでの教育改革実績を更に推し進めるとともに、教育・学修環境のDXを中心とした改革を断行し、徹底した教学IRの導入と個別最適学修支援システムの構築、社会との共創教育の拡大等、学生自身が「自ら学び、自ら育む」教育環境の構築を目指します。

学士

融合学域

先導学類

「社会変革を先導する中核的リーダー」の育成を目指す

現代社会に表出する複層的な諸課題に関し、文理を問わない幅広い知見を活用しながら、その解決に取り組むとともに、イノベーションの創成をリードする意欲と素養を身につけた人材の育成を目指します。学生は自らが追究したい課題を設定し、その課題解決に必要な学知を、「自分の問い合わせ」を軸に、オーダーメードの履修計画を作成して学びます。

観光デザイン学類

文理融合型の学びを通して、新しい観光の価値創造に挑戦する

文理融合型のカリキュラムの下、幅広い知見を活用し、新たな観光価値をデザインする能力を身につけ、ビジネスモデルの転換に対応しながら、我が国の観光を牽引する人材を養成します。社会との共創を学ぶ多様なプロジェクト型演習を配置し、自ら発見、設定した課題の解決に向けて、複数の研究分野を横断的に学修します。

人間社会学域

人文学類

人間に対する洞察力を基に多様な現代的課題に取り組む人を育てる

思想・心・社会・歴史・文化・文学・言語などの研究を通し、人間の多面的理解を進めます。大きく心理学、現代社会・人間学、考古学・文化資源学、歴史学、日本・中国言語文化学、欧米言語文化学、言語科学の7プログラムを設け、2年進級時に選択します。他方、副専攻によって学びの幅を広げ、研究志望、人生設計に対応した教育を行っています。

法学類

よりよい社会実現のために法的・政策的な観点から社会に貢献する

高度に専門化・多様化した現代社会において、複雑な社会問題を解決するためには、その解決に必要な知識と能力を身につけることが不可欠です。法学類では「公共法政策コース」、「企業関係法コース」、「総合法学コース」の3つのコースを設け、現実社会のダイナミズムの中で機能する法的な知識や手法の修得を目指します。

経済学類

現代社会への問題意識と課題解決に向けて行動できる人材を育成

経済学類では、5つの人材養成目標を掲げています。①幅広い教養、知識、判断力を持った社会で活躍できる人材 ②経済学・経営学の専門知識を持った人材 ③自分で課題を発見し、解決できる人材 ④国際コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ICT力を持つ人材 ⑤地域社会の問題に関心を持ち、関わることのできる人材を養成します。

学校教育学類

知識・指導力・共感性—子ども本位の教師を育てる

富山大学教育学部と共同で運営する共同教員養成課程では、地域のリーダーとなる資質を備えた教員を育てます。異なる考え方を持つ仲間との交流を通して共感性と協働性を養い、多様な専門領域の授業によって幅広い知識を獲得できる教育体制をとっています。総合的な指導力を身につけるため、野外活動や教育実習活動などの教育実践も重視しています。

地域創造学類

果敢に挑戦する次代の地域づくりリーダーを育てる

地域に暮らす一人ひとりの幸福を探求する最先端の研究領域「地域創造学」の学修と実践を通して、グローバルな視野を持ちつつ持続可能な地域づくりを目指します。現代的な地域課題と自分の将来像に重点を置いた2つの科目群から核となるプログラムを1つずつ選択して学修し、専門性と総合性を兼ね備えた地域づくり人材を養成します。

国際学類

グローバル化する社会で活躍できる「眞の国際人」を育成する

異文化とのくしなやかな共生を可能とする思考力・創造力・コミュニケーション力をもち、グローバル化した現代社会で活躍できる「眞の国際人」を養成します。日本と国際社会を多面的・総合的に学び、理解を深めるため、「国際関係・国際協力系」「地域研究系」「インクルーシブ社会構築系」の3つの系に10のプログラムを設けています。

理工学域

数物科学類

数学、物理学、コンピュータを駆使して森羅万象の謎に迫る

自然科学の基礎をなす数学と物理学は、コンピュータの進歩により発展した応用数理と計算科学によって新たな時代を迎え、複雑な自然現象の解明や理論の検証が可能となりつつあります。数物科学類では、この4つの学問を有機的に総合した教育と研究を行い、培った論理的思考力を生かして社会のさまざまな分野で活躍する人材を育てます。

物質化学類

原子から宇宙まで、幅広い化学を究め、未来の創造力を育む

化学は、自然界で起こるさまざまな現象の原子・分子レベルでの理解から、21世紀に必要となる環境に適合した新しい機能性物質の創製、さらに日常の生活を支える化学製品の開発と製造過程に至るまでの幅広い領域を含んでいます。化学を通じて科学・科学技術・文化の発展や持続可能な社会の実現に貢献することができる人材を養成します。

機械工学類

先進的な技術とモノづくりで、持続可能な未来社会構築を牽引する

我が国が目指す未来社会を具現化するための Society5.0. サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させ、知識や情報を共有しながら全ての人とモノとをつなげ、温室効果ガス排出削減、持続可能な産業構造の構築など自然、人間社会との調和を図り、グローバル化している工業・産業の広い分野で活躍できる技術者・研究開発者を育成します。

フロンティア工学類

近未来社会を支える先端テクノロジーを、工学の融合で切り拓く

技術革新が進む現代社会では、さまざまな工学の知識を融合して未来社会を創造する能力が求められます。フロンティア工学類では、従来の工学の専門分野（電子機械、機械、化学工学、電子情報）を学んだのち、先進的な6つのフロンティアプログラムを選択し、従来の工学の枠を超えた未踏領域～フロンティア～を開拓する素養を身につけます。

電子情報通信学類

電気電子・情報通信技術を通して、未来の情報化社会を創造する

エネルギー、エレクトロニクス、情報通信およびコンピュータ技術は相互に強く関連し、持続的発展可能で高度に情報化された未来社会を構築する上で重要な役割を果たしています。これらの分野の体系的な教育を通して、未来志向の創造力を備え、高度情報化社会にグローバルな視点から貢献できる技術者、研究者を育成します。

地球社会基盤学類

地球環境を理解し未来をつくる科学者・技術者・教育者を育てる

地球と生命の46億年の歴史および環境や自然災害、インフラストラクチャーを対象に、理学と工学の両面から、総合的かつ実践的な教育を行い、地球環境の調査・研究や豊かな社会を構築するための科学技術を理解し、地球をとりまく自然現象の多角的な解明、安全で快適な社会基盤の構築・維持、魅力ある都市・環境づくりができる人材を育成します。

生命理工学類

生命の原理を究め、生命を活かす研究者、技術者、教育者を目指す

生きた個体や細胞にふれながら生物学の面白さを体験する実物教育を通して、生物科学、環境科学、海洋資源工学、生命工学の基礎から最先端までの知識を学びます。生命の探究と利用において革新的な進展をもたらすとともに、持続可能な文明社会の発展を牽引できる人材を育成することを目指します。

医薬保健学域

医学類（6年制）

人間性豊かで社会に貢献できる医師、医学者を育てる

医学類の教育理念は、「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉に貢献する」です。学修到達目標として、知識および技能、研究心、倫理観、地域医療、コミュニケーション、危険・事故の予防の6領域を定め、6年間にわたる医学教育により医師・医学者を育成します。

薬学類（6年制）

薬の専門人として健康や医療に関わる諸課題の解決に挑戦

人類が抱える健康や医療に関わる諸課題の解決に挑戦し、持続可能社会の実現に貢献する、薬剤師資格を有した多様な「薬（くすり）専門人」を養成することを目指します。次代の薬学教育・研究を担う「大学教員・研究者」のほか、薬学の基礎から臨床までを修得し、プラスαの専門性を身につけたさまざまな「薬学プロ人材」等を養成します。

医薬科学類

次代の先進医療や画期的新薬開発に寄与する医薬科学研究者を養成

健康長寿社会の実現に向けて、次代の医療や新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を、世界レベルで展開できる高度な研究者を養成します。「生命医科学」と「創薬科学」の2コース（定員各9名）からなり、医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学び、大学院進学まで視野に入れたカリキュラムが特徴です。

保健学類

人間の誕生から終末までを科学の目で捉え、健康な生活をサポートする

人間としての尊厳を維持し、健康で幸福な生活の実現に貢献することを目指す保健学の基礎技術・知識を学び究めるとともに、保健・医療・福祉の発展に寄与する「保健学のプロ」（卒業時に国家試験受験資格を取得）を育成します。保健・医療・福祉の科学的知識と理論、技術の修得を通じ、多くの課題に応えられる高度な専門的人材を育成します。

国際基幹教育院

基幹教育を強固に推進し、本学の教育全体の高度化と国際化を牽引

金沢大学独自の人材育成方針である「金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）」に基づき、学士課程から大学院課程における基幹教育を推進し、本学の教育全体の高度化と国際化を牽引します。4つの教育部門が連携・協力して、体系的な共通教育カリキュラムを提供しています。また、「文系一括・理系一括」入試で入学した学生は本院内設置の「総合教育部」に1年間所属し、2年次に学類へ移行します。そのため国際基幹教育院は学生が適切に学類選択できるよう支援体制を整えています。

人文学専攻
(博士前期課程)

広げるか、深めるか。多様な人文知のあり方を探る

複合的領域に関する研究を主に行う5つの学際総合型プログラムと、人間科学、歴史学、言語・文学、文化資源学などの特定専門領域に関する研究を主に行う17の専門深化型プログラム、そして公認心理師養成プログラムがあり、学生は入学試験の際にこの中から1つを選択して履修します。取得できる学位は修士（文学）または修士（学術）です。

経済学専攻
(博士前期課程)

理論・政策・経営から国際社会経済の現代的諸問題に対峙する

経済理論・政策、国際社会・経済、経営情報の3コースがあり、学生はいずれかを選択して履修します。取得できる学位は、修士（経済学）、修士（経営学）または修士（学術）です。

地域創造学専攻
(博士前期課程)

暮らす人が生き生きとかがやく地域を創り出す

地域創造学と教育支援開発学の2コースからなり、高度な地域創造力を備えた専門職業人の育成を目指し、課題型インターンシップなどを用意しています。両コースとも取得できる学位は修士（地域創造学）または修士（学術）です。

国際学専攻
(博士前期課程)

外国語を入口に世界を理解し、日本語を出口に日本を発信する

国際関係・地域研究と日本語教育・日本文化研究の2コースからなり、前者には授業がすべて英語で行われるInternational Studies Programもあります。両コースとも取得できる学位は修士（国際学）または修士（学術）です。

人間社会環境学専攻
(博士後期課程)

人間・社会・環境が直面する諸問題を解決し、新たな知を開拓する

人文学、法学・政治学、社会経済学の3コースからなり、学生はそのいずれかに所属して履修します。取得できる学位は、博士（社会環境学）、博士（文学）、博士（法学）、博士（政治学）、博士（経済学）または博士（学術）です。

文化資源マネジメント教育プログラム

産官民で活躍する文化資源マネジメントの専門人材を育成する

人間社会環境研究科に設置された特別プログラムで、有形無形の文化遺産を人類共有の資源と捉え、有効な保存・継承・活用のための管理運営に携わる専門家を養成します。英語によるプログラムで、研究の基礎となる考古学、美術史、文化人類学などの基礎と方法論を学んだ後、課題と研究対象を設定して調査を行い、学位論文の執筆につなげます。

自然科学研究科

数物科学専攻
(博士前期課程・博士後期課程)

数学、物理学、計算科学の叡智で自然現象を解明する

自然科学の根幹をなす数学、物理学に加え、コンピュータの進歩とともに発展した新しい学問である計算科学の教育研究を行います。自然科学の諸問題を根本的なレベルで解明できる能力や、習得した専門知識と研究手法を、高度職業人や研究者として、国際社会や自然界の多様な問題の解決に応用できる能力を備えた人材を育成します。

物質化学専攻
(博士前期課程・博士後期課程)

物質の解析や創成を通して、最先端の化学を切り拓く

自然界のさまざまな現象を物質の変化という観点から捉え、自然と調和した豊かな社会を実現するために、化学が関係する広範な分野において、自ら課題を見出し、先導的研究を実施できる高度な人材（研究者・技術者）の育成を行っています。

機械科学専攻
(博士前期課程・博士後期課程)

機械工学をベースとした実践的で幅広い教育研究を行う

自然と人間との調和を考慮した機械科学について、実践的でかつ幅広い教育研究（自然との適合、効率的な資源やエネルギーの利用、快適で安全、秩序ある社会の発展に貢献する教育研究）を行っています。

自然科学研究科

フロンティア工学専攻
(博士前期課程)

工学の専門性の深化・融合により未来社会の未踏領域に挑む

電子機械、機械工学、化学工学、電子情報工学の各分野における専門性を深化させるとともに、これらを融合して未来社会で必要とされる課題やイノベーションに対応できる専門知識と俯瞰力・総合化力を醸成します。さらに高い倫理観と国際性のもと、人類社会の持続的発展に貢献できる技術者・研究者を育成します。

電子情報通信学専攻
(博士前期課程)

電気電子・情報通信工学を通して、未来の情報化社会を創造する

創造力豊かで、新分野開拓にも意欲を持ち、自立心と統率力、国際性を備えた、電気電子工学、情報通信工学分野の研究者や技術者の育成を目指します。また、最新の情報技術からグローバルなエネルギー対策や環境問題まで、専門性に加えて総合的・学際的な課題を取り組むことができる人材を育成します。

地球社会基盤学専攻
(博士前期課程)

地球環境のしくみを理解し持続可能な社会基盤のあり方を探求する

「環境の世紀」とも言われる21世紀。本専攻では、地球惑星科学の観点から地球環境とその成り立ちの総合的な理解によって未来の地球像を捉えるため、そして、社会基盤工学の観点から自然災害や環境変動に対応した社会基盤システムを構築するための教育と研究を行い、環境と調和した持続可能な未来社会の実現に貢献します。

生命理工学専攻
(博士前期課程)

生命の原理を究め豊かで持続可能な自然と社会の実現を目指す

豊かで持続可能な自然環境と自然と調和のとれた人間社会を実現するため、生命現象の謎に挑戦する生物科学、海洋と陸水圏の生物種の生理・生態を学び食料生産へつなげる海洋生物資源科学と、生物学を工学的発想で社会に適用するバイオ工学の各分野で、専門知識とコミュニケーション能力、問題解決能力と実践力を身につけた人材を育成します。

電子情報科学専攻
(博士後期課程)

電子情報科学を通して、高度情報ネットワーク社会を実現する

高速・大容量かつ快適な高度情報ネットワーク社会の実現に向けて、革新的な技術開発を行っています。電気工学、電子工学、通信工学、情報工学の分野について国際水準の教育を系統的に行うとともに、これらの分野を連携強化した新しい技術を創成します。

環境デザイン学専攻
(博士後期課程)

自然と調和した持続可能な社会・環境基盤の創造を目指して

自然と調和した社会・環境基盤の創造を志向し、持続可能かつ安全で快適な国土・都市づくりの要となる社会基盤を構築する責務を担うため、調査・研究、計画、設計・施工・維持管理、さらには廃棄物の処理・再生・更新・廃棄に渡る環境デザインの幅広い局面で必要となる、高い専門性と学際性を備えた技術・工学について、教育研究を行っています。

自然システム学専攻
(博士後期課程)

自然と調和した科学の発展と豊かな生活の実現を目指す

生物学、バイオ工学、化学工学および地球環境学が融合してきた、まさに理工の融合領域に挑戦する専攻です。専攻の教育を通じて、自然科学の分野で、グローバル感覚、創造力、倫理観の高い研究者・技術者・教育者を育成しています。

サステナブル理工学プログラム

分野横断教育でイノベータ型博士人材を養成

持続可能で安全・安心な社会の発展に貢献し、国際社会で幅広く活躍できるイノベータ型博士人材を養成する5年一貫型プログラムです。本プログラムでは、多様な学問分野に立脚し専門領域を横断する新しい領域を学びます。

医薬保健学総合研究科

医科学専攻
(修士課程)

医学に基盤を持ち多様な専門的背景をもつグローバルな人材を育成

生命科学、基礎医学および臨床医学を体系的・集中的に学ぶとともに、指導教員の研究指導のもとで医学に関連する実験科学を学びます。医学分野での研究者並びに医療・産業分野の専門的な職業人として活躍しうる医学的資質を身につけた人材を養成することを目的とし、医学科以外の文系・理系を問わない多様な学問的背景を持つ方を受け入れています。

医学専攻
(博士課程)

医学の分野で世界をリードする研究者および高度専門職業人を養成

医学専攻は、疾病に対する医学と治療を主眼として、基礎・臨床の融合的・発展的な教育研究を推進するため設置されました。幅広い分野における医学的知見および疾病機構や病態の解明に必要な能力の基盤となる学識を有し、疾病に罹患した患者に対し迅速かつ的確な診断や、患者に負担の少ない効果的で良質な治療を開発し提供できる人材を養成します。

薬学専攻
(博士課程)

高度な専門性を有する薬学教育・研究のリーダー・医療人へ

薬学を中核に据えた分野における最先端の知識、医療人としての実践的な研究能力、および高い倫理観と国際的視野の醸成を目的とします。医療系学問分野が横断的に連携した学際的環境の中で、幅広い分野での教育を通して、高い専門性を有する薬学教育・研究のリーダー、自然科学の素養と学術的に優れた研究能力を兼ね備えた医療人を養成します。

創薬科学専攻
(博士前期課程・博士後期課程)

国際的視点で活躍できる創薬科学・生命科学の先駆的な研究者へ

博士前期課程では、創薬科学の幅広い知識と研究能力を兼ね備え、国際的視野を有する人材の養成を目的とし、創薬を含む生命科学全般に貢献できる人材を養成します。博士後期課程では、最先端の知識や技能と高い研究能力の醸成を目的とし、高い見識、卓越した研究能力、強いリーダーシップを備えた、国際的に活躍できる研究者を養成します。

保健学専攻
(博士前期課程・博士後期課程)

21世紀の保健学を先導する知の創成と新学問領域を形成する

保健学の総合的研究および学際的研究を推進し、21世紀の保健学を先導する知の創成と新しい学問領域の形成を行います。博士前期課程では、豊かで幅広い学識と高度な問題解決型思考能力を持つ指導的高度専門職業人を、博士後期課程では、高度な研究能力を持つ国際的研究者・教育者を育成し、保健学の発展と人類の健康と福祉の向上に寄与します。

先進予防医学研究科

先進予防医学共同専攻
(博士課程)

予防医学についての国際的視野を持ち社会に還元できる人材を育成

金沢大学、千葉大学、長崎大学が共同で同一のカリキュラムにより教育を行う、4年制の博士課程の共同大学院です。オミクス情報からマクロ環境情報まで個人や環境の特性を網羅的に分析・評価し、教育研究分野や医療分野等で、0次予防から3次予防までを包括した「個別化予防」を実践できる人材を養成します。

新学術創成研究科

融合科学共同専攻
(博士前期課程・博士後期課程)

“融合型大学院教育モデル”から「新たな知」の創造

異分野融合による科学技術イノベーションで現代社会の課題を解決する人材を育成します。北陸先端科学技術大学院大学と共同でカリキュラムを構成しており、両大学の教員の専門は人文・社会科学、自然科学、医薬保健学と多岐にわたります。学生は自身の専門に加え、専門の異なる科目履修やラボ体験等を通じ、多様な観点から融合科学に挑戦します。

ナノ生命科学専攻
(博士前期課程・博士後期課程)

世界最先端の研究拠点で未踏ナノ領域を切り拓く

本学ナノ生命科学研究所（WPI Nanolsi）の研究実績を基盤とし、高性能走査型プロープ顕微鏡（SPM）技術を用い、ナノレベルでの原子・分子の動態計測および動的挙動制御技術の開発に取り組む人材や、世界最先端の動態計測および動的挙動技術を生命・物質科学分野に展開し、その現象の解明に向けた研究に取り組む人材を、5年一貫型の教育体制で養成します。

ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラム（卓越大学院プログラム）

ナノ技術を活用できる健康課題解決人材を育成

大学院自然科学研究科、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科および新学術創成研究科の4研究科を横断する5年一貫型の博士課程（または4年制博士課程）学位プログラムで、2019年度、文部科学省「卓越大学院プログラム」に採択されました。世界トップレベル研究拠点ナノ生命科学研究所の卓越した研究環境の下、民間企業も参画し、人類社会の課題である「がん、生活習慣病、脳神経病、微小粒子・ナノ材料による疾患」を対象に、技術に強いナノ精密医学・医学に強いナノ精密理工学プロフェッショナルを育成します。

法学研究科

法学・政治学専攻
(修士課程)

キャリアアップにつなげる法学・政治学の高度専門教育

研究コースと高度専門職コースの2コースがあり、研究コースは、基礎法学、公法学・社会法学、民事法学、政治学の4つのプログラムの下、法学や政治学を専門とする研究者の養成を行います。高度専門職コースは、法や政治に関する専門知識を生かした職業人の養成を行います。両コースとも取得できる学位は修士（法学）または修士（政治学）です。

法務専攻
(専門職学位課程)

少人数授業による地域に根ざした法曹教育

法曹養成のための専門職大学院です。標準コース（修業年限3年）と短縮コース（同2年）があります。地域に根ざした法曹教育を基本理念とし、少人数教育により循環型学習を実施します。修了者には法務博士（専門職）の学位が授与され、司法試験の受験資格が与えられます。司法試験合格者の多くは、北陸三県を中心に弁護士として活躍しています。

教職実践研究科

教職実践高度化専攻
(専門職学位課程)

現代の教育課題に挑戦する教職実践知の交流拠点

高度な実践力を備えた教員を養成するための専門職大学院で「学習デザインコース」と「学校マネジメントコース」があります。現職教員と学士課程卒の教員志望者が共同して学ぶとともに、研究者教員と実務家教員がすべての授業や研究指導を共同で担当します。また、附属学校園や県教育委員会と連携した学校実習を行い、理論と実践を往還させます。

大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科金沢校
(こころの相互認知科学講座)

科学的視点をもって子どものこころを健やかに育てるために

子どものこころと脳の発達およびその障がいに関する高度な知識と技能を修得することを目的とした博士課程（後期3年）です。子どものこころの課題の解決に取り組む、さまざまな専門的背景を持つ人たちを連携・統合できる高度な指導者および研究者を養成することが目標です。金沢校では、社会認識、コミュニケーションの発達の本質を探るため、神経生物学、脳画像解析学、精神医学および社会心理学を融合した教育と研究に取り組んでいます。

別科

養護教諭特別別科

実践的な演習で養護教諭を養成

文部科学大臣より指定された1年制の養護教諭養成機関です。看護師免許取得または取得見込の者を対象とし、取得した看護師の免許科目を基盤に養護教諭一種免許状取得を目指します。免許取得に必要な「養護に関する科目」では、教育現場に直結させた実践的な演習を、「教職に関する科目」では、教育の本質に関する講義とともに養護実習を重視しています。

研究域附属研究センター

人間社会研究域

先端観光科学
研究センター

移動・共有・共感についてのエビデンスに基づいたサイエンス

文理融合の学際的アプローチによって、観光に関わる行動、サービス、政策・制度を科学的に解析し、観光による未来変革を研究するとともに、観光の促進と地域の発展に寄与することを目的に設置されました。①移動・共感・共有に関するサイエンスとしての観光科学を確立する ②異分野の研究融合から観光科学を革新し、国内外の研究をリードする国際的拠点となる ③北陸・金沢の地域資源を最大限に活用して観光のイノベーションを促進し、地域とともにサステイナブルな観光の実現に寄与する、という目的を設定しています。

理工研究域

先端宇宙理工学
研究センター
(ARC-SAT)

金沢大学発の人工衛星で宇宙を理解する

本学がこれまでに展開してきた宇宙理工学研究を基に、「人工衛星や宇宙探査機を用いた科学」の発展的研究を行うため、2019年7月に本学理工研究域の附属研究センターとして設置しました。先端機器開発、天文学・宇宙物理学、太陽地球系科学の3つの研究部門で構成され、先端的な科学観測により太陽地球系から遠方宇宙までを包括的に理解するための研究拠点形成を目指しています。また、宇宙理工学分野の人材育成に資するために「金沢大学衛星プロジェクト」を推進し、学生が主体となる手作り超小型衛星を開発しています。

医薬保健研究域

AIホスピタル・
マクロシグナル
ダイナミクス
研究開発センター

持続可能な地球的健康長寿社会モデルの確立を目指す

本センターは、ゲノム等オミクスデータと医療ビッグデータを統合するデータサイエンスの推進と新規研究・学術分野の創生と発展を目指すとともに、研究成果から健康長寿社会モデルを提唱し、超高齢社会に持続可能な地域ヘルス・エコシステムを実現することを目指して、2020年9月に設置されました。本学の強みである地域に根差した強固なネットワークによる良質なデータセットを活用し、領域横断的で独創的な共同研究を推進する研究基盤組織として、未来社会を創造する新たなシーズの創出・実装を目指します。

附属病院

“地域医療の要”として最先端の医療を実践

加賀藩種痘所（1862年開設）を起源とする「地域の中核的医療機関」です。特定機能病院や都道府県がん診療連携拠点病院などに指定されており、地域の拠点病院としての機能を果たしています。また、診療だけでなく、県内における医療人の育成や臨床研究を積極的に推進しています。「最高の医療を提供するとともに、人間性ゆたかな優れた医療人の育成に努めます」を基本理念とし、患者さんが満足できる良質な医療の提供、将来を担う医療従事者（医師、看護師およびメディカルスタッフ）の育成を行っています。

統合創成研究環

人文・社会科学、自然科学、生命科学が一体となり、総合知を創出

本学の特色ある研究の先鋭化、優位性ある研究領域のさらなる強化、知の融合と多様なセクターとの協働により、未来社会の変革を目指す研究の場を創出し、多様化する社会課題を解決し得る社会貢献・社会実装を実現するため、2022年4月に創設しました。統合創成研究環は、研究推進部門、研究統括部門、研究支援部門で構成されています。このうち研究推進部門には3つの研究群が置かれ、新学術創成研究機構を核とした異分野融合研究を推進することにより、新たな世界トップレベルの研究拠点の形成を目指します。

附置研究所等

がん進展制御研究所（CRI）

がんの先端サイエンスとがん診断・治療への橋渡し

「がんに関する学理およびその応用の研究」を目的に1967年に設置しました。国立大学附置研究所で唯一「がん研究」に特化した研究所です。2010年にはがん研究の中核的拠点の一つとして文部科学省から「がんの転移・薬剤耐性に関わる先導的共同研究拠点」に認定されました。本研究所は「先進がんモデル」、「がん幹細胞」、「がん微小環境」、「がん分子標的」に関わる研究で世界的な成果を上げています。また、近年、異分野融合研究を加速し、独創的・先駆的成果を発表しています。がん克服は世界共通の願いです。国内外の研究者・研究機関・企業との連携を強化しながら、がん悪性進展機構の解明、革新技術と連携した診断・治療に関わる成果を発信しています。

ナノ生命科学研究所（WPI-NanoLSI）

これまで誰もみたことのない生命現象を、観る、そして制御する

本学が2017年度に「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」に採択されたことを受け、設置しました。本研究所では、1メートルの10億分の1、ちょうど分子や原子のサイズである「ナノ」の世界を舞台に、ナノスケールのものを観察できる最先端の「走査型プローブ顕微鏡技術」を核として、ナノ計測学、生命科学、超分子化学、数理計算科学における融合研究を推進しています。近い将来、生きた細胞の内部や表層を直接観察、分析、操作することができる世界初の「ナノ内視鏡（ナノプローブ）技術」を開発し、この技術によって生命の誕生や老化、「がん」等の疾患など、未だその実態が解明されていない生命現象の仕組みを根本的に理解し、解明することを目指します。

ナノマテリアル研究所（NanoMaRi）

材料・デバイス技術とナノ計測・計算科学が連携したナノサイエンス

新学術創成研究機構における融合研究推進の顕著な成果であるナノサイエンス分野をさらに加速・発展させるため、2018年8月に設置しました。本研究所では、本学が優位性を持つ材料・デバイス技術にナノ計測、数理計算科学を取り入れた統合的アプローチで、社会に貢献できる次世代のイノベーションを先導する機能性材料やデバイスの開発とその実用化を強力に推進します。本研究所には、新規材料開発グループ、創エネデバイス開発グループ、省エネデバイス開発グループ、パワーデバイス開発グループ、ナノ計測グループ、理論・計算科学グループおよびバイオ・セルロース連携グループを配置し、国立研究開発法人、企業、海外研究機関との連携により、研究成果の社会実装をより一層加速させます。

設計製造技術研究所（AMTI）

オンデマンドモノづくりのためのスマート設計生産システムの構築

Society 5.0に対応した「オンデマンドモノづくり」を実現するスマート設計生産システムを構築するため、その開発拠点として2019年に設計製造技術研究所（Advanced Manufacturing Technology Institute）が設置されました。本研究所は機械学習・最適化部門とデジタルツイン部門からなる設計技術領域と、金属AM（Additive Manufacturing）技術開発部門、材料・構造開発部門、複合製造技術開発部門からなる製造技術領域から構成され、斬新で柔軟な発想を具現化するための次世代の設計生産技術を開発し、社会実装することを目的とし、産官学の総力を結集してモノづくりの高度化を目指しています。

高度モビリティ研究所（AD-More）

自動運転技術で新たな未来社会を創造する

Society 5.0の実現に向けて、人工知能（AI）や移動ロボット等の活用による自動運転や物流の自動化など、さまざまな分野におけるモビリティ技術の高度化に注目が集まっています。同時に、これらの高度なモビリティ技術を活用した新たなサービス創出にも、大きな期待が寄せられています。このような背景のもと、本学が優位性を有する自動運転に関する取り組みをさらに推し進めるために、2021年4月に本研究所は設置されました。自動運転技術、認識技術、先進車両技術などの研究開発に加え、次世代モビリティサービスの社会導入に向けた課題を整理し、さまざまな付加価値の提供による新たな未来社会の創造を目指しています。

古代文明・文化資源学研究所

文理融合研究による古代文明研究の世界的研究拠点

本学の強みの一つである考古学・文化資源学の研究を格段に進化させるため、2022年4月に設置されました。エジプト、西アジア、インダス、中国といういわゆる四大文明に新大陸のマヤ文明を加えた、我が国唯一の世界を俯瞰する古代文明の研究所です。学際研究により古代文明の世界的な研究拠点となることを目指し ①世界各地の古代文明の中心地と周縁で世界をリードする発掘調査や考古学研究を展開し、古代文明の研究を通して人類史の解明に寄与する ②革新的文理融合研究により、世界各地の古代文明の起源の解明や、発展と衰退のメカニズムの解明に寄与する ③研究成果を学術分野にとどめることなく広く社会に還元しSDGsの達成に貢献する、という3つの目標を掲げています。

附属図書館

前身校からの伝統を新たな総合知の創出へとつなげる知の拠点

中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館から構成され、年間約39万人の入館者と、9万6千冊の館外貸出があります。蔵書数は193万冊にのぼり、貴重書を含む旧制第四高等学校等の前身校蔵書をほぼそのまま継承しています。学生の多様なニーズに対応した学修環境の提供、専任教員等によるライティング支援、先輩学生のライブラリー・ラーニング・アドバイザーによる学修支援も行っています。また、国内外の図書館との相互貸借や、北陸3県在住者への直接貸出等、社会人や地域の方にも積極的に学修・研究の機会を提供しています。

学内共同教育研究施設

学術メディア創成センター

デジタル時代を先導し、本学のエマージングメディアを創成

本学のデジタルトランスフォーメーションを戦略的に遂行するための拠点として、学術システム部門、教育メディア部門から構成されています。また、情報システム管理室では、ネットワークや情報サービス（アカンサスポート、電子メール、統合認証システム）の管理・運用のほか、パソコン相談センターでICTに関する支援業務を行っています。

環日本海域環境研究センター

越境汚染に関連した国際共同研究拠点

環日本海域から東アジアにおける自然現象と人間活動により生ずる種々の環境問題の解決を目指し設置しました。2016年4月には、文部科学省共同利用・共同研究拠点に「越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点」として認定され、能登半島地域の実験フィールドと国際共同観測ネットワークを広く学内外に開放し、大気—海洋—陸域を統合した越境汚染物質の動態解析モデルの確立およびヒトの健康・生態系への影響評価と将来予測について国内外の教育研究機関と共同調査・研究を展開しています。臨海実験施設は2012年7月に文部科学省教育関係共同利用拠点に認定され、共同利用・共同研究拠点の成果を取り入れた公開臨海実習等を通して全国の大学教育に貢献しています。

疾患モデル総合研究センター

動物モデルから患者さんへ 金沢大学におけるハブとなる研究組織

研究高度化部門（疾患モデル、疾患解析プローブ・ケミカル、疾患オミクス分野）と実験支援部門（学内共同教育研究施設）で構成されています。実験支援部門では、遺伝子組換え生物、動物、RI、核燃料、機器を用いた実験を適正に行うための安全管理を行い、研究高度化部門では、疾患モデル生物の作出と網羅的な解析により研究への貢献を行います。

子どものこころの発達研究センター

子どものこころを健やかに育てるための国際的研究拠点

子どものこころと脳の発達およびその障がいに関する高度な知識と技能を修得し、課題発見・解決能力を備えた専門家の養成に努めています。基礎研究から医療・支援までのさまざまな背景を持つ研究者、臨床家が集い、各自の専門性を活かしながらチーム一丸となって、子どものこころの課題の解決に挑戦しています。

学内共同教育研究施設

先進予防医学研究センター

「ゼロ次予防と個別化予防研究」を地域と世界で展開する

教育および研究の両面において、個人や環境の特性を網羅的に分析・評価し、0次予防から3次予防までを包括した「個別化予防」を実践するための研究面を推進するため、本学だけでなく、千葉大学、長崎大学にそれぞれ先進予防医学研究センターを設置し、3大学での共同研究や地域住民のコホート研究などを行っています。

環境保全センター

教育・研究活動に伴う公害を防止し、生活環境の安全確保を図る

本学における環境分野での研究、教育の推進を図るとともに、大学の化学物質管理システムの管理運営を行い、また、大学の研究、教育、医療活動等に伴い発生する各種の廃棄物などに含まれる重金属や有機溶媒などの収集および委託処理を行っています。

保健管理センター

心と体の健康のトータルサポートからウェルネス向上を目指す

学生および教職員の心身の健康を向上させるためのサービスを提供しています。看護師や保健師が常駐し、保健指導や簡単な手当てをしています。医師による健康相談や公認心理師による学生相談も受けることができます。また、学生のウェルネス向上と成長を目指した学生支援プログラムを提供しています。安全衛生業務も担当しています。

グローバル人材育成推進機構（O-GHRD）

グローバル人材育成に向けた組織横断的な人材育成プログラムの展開

本学の教育・研究・国際の各戦略を踏まえ、グローバルに活躍できる人材を育成するため、学長直轄のグローバル人材育成推進機構を設置しています。本機構では、「知識集約型社会を支える人材育成事業」や「地域基幹産業を再定義・創成する人材創出プログラム（ENGINE）」など初等中等教育や学士課程から大学院に至るまで、幅広く組織横断的な人材育成プログラムを構築・運用しています。

新学術創成研究機構（InFiniti）

新たな学術領域の創出を目指して

本学に優位性のある研究分野のさらなる強化、分野融合型研究の一層の進展および国際頭脳循環の継続的拡充を一体的に推進し、革新的な研究成果の創出と新しい学術領域の創成に繋げることを目的とし2015年に設置しました。「がん進展制御」「革新的統合バイオ」「未来社会創造」の3つの研究コアに計16のユニットを配置し、学際的研究を推進しています。その研究成果を基盤に教育にも参画し、学際性・総合性・国際性を有する若手研究者を育成しています。

先端科学・社会共創推進機構（FSSI）

研究支援、産学官連携、地域連携活動を一体化して推進

部局等を越えた学際的融合新領域の創出により、本学の教育研究の一層の高度化、基礎研究から応用研究に至る全領域の研究支援、産学官連携および地域連携活動を一体化した社会共創活動を推進することで、本学の教育研究の活性化と社会貢献に資することを目的としています。総合マネジメント部門と関連施設等で構成され、総合マネジメント部門には教員、URA（リサーチ・アドミニストレーター）が所属しています。本学の社会共創の核となるさまざまなプロジェクトの推進を支援し、研究成果の社会還元を促進します。

国際機構

国際化に関する事業を統括し、本学の国際化を推進する

2012年4月、本学における国際化に関する事業を統括し、本学の国際化を推進することを目的に設置されました。国際連携部門では、国際連携戦略の策定、国際交流の充実、国際研究交流支援および国際協力に関する業務を、国際教育部門では、外国人留学生、外国人研究者および海外留学を希望する学生に対する支援、外国人留学生に対する各種教育・研修プログラム等の提供に関する業務を行っています。この他、スーパーグローバルELPセンター、SDGsジオ・エコパーク研究センターを有しています。

ダイバーシティ推進機構

皆が志高く自らの能力を最大限発揮できるダイバーシティ環境を目指す

本学のすべての構成員が資質と能力を十分に発揮できる教育研究環境の実現を目的とし、キャリアデザイン部門、ワークラムバランス部門、次世代育成部門、グローバライゼーション部門、ユニバーサル部門の5部門からなる「ダイバーシティ推進機構」を2022年4月に設置しました。本機構では、本学の役員、教職員、学生・生徒等、本学で就労・修学等に従事するすべての者が、相互に、性別、年齢、民族や国籍、障がいの有無、性的指向、性自認その他の個性を尊重し合える共生社会の実現を目指します。

学内共同利用施設

極低温研究室

液体ヘリウム、液体窒素を使用する共通実験室を備え、磁化測定装置や比熱測定装置などが共同利用されています。ヘリウム液化機、液体窒素貯槽を備えており、学内の多くの部局に液体ヘリウム、液体窒素を供給するとともに、低温実験に必要な技術的な指導や、高圧ガス保安法に基づく安全講習も毎年実施しています。

資料館

1989年に設置、2022年に埋蔵文化財調査センターと統合。本学および前身校関係の学術標本・大学史料・埋蔵文化財を収集・整理・保存・公開しています。学内展示や学外での展覧会等を開催すると共に、教育活動に協力し、博物館実習施設としての役割も担っています。なお、博物館法に定める「博物館に相当する施設」に指定されています。

技術支援センター

本学における技術教育および研究支援を行うとともに、地域社会に対する技術支援・技術啓発等の社会貢献を行うことを目的とした学内共同利用施設です。汎用機から最先端の工作機械まで数多くの機器を有し、学生の工作実習やものづくり支援、実験装置の設計・製作や技術開発相談、小中学生を対象としたものづくり教室等の活動を行っています。

高大接続コア・センター

国際社会を牽引する多様な能力を秘めた人材を見出し、受け入れ、育成するために設置しました。「金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）」の理念に基づく入学者選抜方法等の調査・開発や、高大接続プログラムの開発・実施・評価が中心的業務です。この他、国内外の大学入試制度や高大接続の取り組み等を調査しています。

教学マネジメントセンター

教学マネジメントを推進することで、本学の教育・学修の充実と発展を図り、本学が掲げる基本理念の実現に資することを目的に設置しました。内部質保証の仕組みを確立し、学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組むとともに、高等教育に関する調査研究・開発、全学FD支援、教員のスキルアップ支援等も行っています。

教職総合支援センター

学校教育学類附属教育実践支援センターを2022年4月に改組し設置しました。これまで教育実践支援センターが行ってきた学校支援にかかる業務に加え、県や市町の教育委員会や県教員総合研修センター、いしかわ師範塾などと連携し、教員を目指す金沢大学生のサポートや各学類の教職課程の支援などを行います。

数理・データサイエンス・AI教育センター

本学の数理・データサイエンス・AI教育に関する企画運営等を統括して、全学でデータサイエンス特別プログラムを推進するとともに学域および研究域を支援します。併せて、他大学や産業界とも連携し北信越ブロックにおける数理・データサイエンス・AI教育の充実にも寄与することで、文部科学省の選定校としてデジタル推進人材育成に貢献します。

その他の施設等

学生留学生宿舎「先駆」「北溟」

国際交流を推進し、グローバル人材の育成を目的とした日本人学生と外国人留学生が1つのユニット（男女別）で共同生活するシェアハウスタイプの宿舎です。

国際交流会館

外国人留学生と外国人研究者のための宿舎です。78室の単身用居室と多目的室・ラウンジなどの共有スペースがあります。

金沢大学創立五十周年記念館「角間の里」

金沢大学創立五十周年記念事業の一つとして、2005年に白峰村の民家（山口新十郎家、築300年）を移築しました。自然環境に恵まれた角間キャンパスでの、教育、研究、地域連携などを目的とした行事に利用されています。

金沢大学東京事務所

本学の首都圏における学生の就職活動の拠点、教職員の活動拠点、各同窓会の連絡拠点や交流の場として利用されています。

能美学舎

能美市の自然豊かなフィールドにある合宿研修施設です。会議室、宿泊室、体育館などを備え、日帰りの利用も可能です。研究室の発表会や各種正課外活動など多目的な用途での利用に供しています。

金沢大学五箇山セミナーハウス「助市」

2016年に世界文化遺産である五箇山相倉合掌造り集落（富山県南砺市）に開所しました。合掌造り茅葺きの建物には、多目的スペースや和室のほか、シャワールームも完備されており、教育、研究、社会貢献活動の拠点として幅広く活用されています。

金沢大学サテライト・プラザ／金沢大学金沢駅前サテライト／金沢大学珠洲サテライト／金沢大学小松サテライト

金沢市西町教育研修館内にサテライト・プラザを設置し、公開講座や街なかでのゼミ、研究活動等に活用しています。また金沢駅前に駅前サテライトを、能登、加賀地区にもそれぞれサテライト施設を設け、地域と連携した幅広い学びと交流の場を提供しています。

能登学舎

能登地域における大学と地域の教育研究拠点として開設しました。能登半島の先端に位置し、前方には海を臨み、後方には里山が広がります。地域をフィールドに、人材育成や地域活性化に関する研究、環境研究などのユニークな取り組みを行っています。

金沢大学データ

●淵源：1862年 加賀藩彦三種痘所

2022年5月1日現在

●教職員数：2,914人 役員10人、教育研究職員1,332人、事務職員455人、技術職員1,117人

●予算：総額64,631百万円（2022）

●面積：約257万m² 角間キャンパス2,008,565m²、宝町・鶴間キャンパス151,053m²、その他409,614m²

●組織

4学域・19学類等：

融合学域 先導学類、観光デザイン学類

人間社会学域 人文学類、法学類、経済学類、学校教育学類、地域創造学類、国際学類

理工学域 数物科学類、物質化学類、機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類、地球社会基盤学類、生命理工学類

医薬保健学域 医学類、薬学類、医薬科学類、保健学類

国際基幹教育院総合教育部

7研究科：

人間社会環境研究科、自然科学研究科、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科、新学術創成研究科、法学研究科、教職実践研究科

その他：

附属病院、附置研究所等

【教育】

●学生数：10,160人

学士課程7,757人、大学院（修士・博士前期）1,352人、大学院（博士・博士後期）956人、大学院（専門職学位）62人、養護教諭特別別科33人

●入学者数：1,769人 北陸3県出身 約43%

●卒業者数：1,795人 累計：98,404人 学士課程卒業者の約31%が大学院等へ進学

●修了者数：823人 累計：28,574人

●蔵書数：193万冊 電子ジャーナル10,888タイトル

【研究】

●学術論文数：12,241件（2012.1-2022.2）

●学術論文被引用数：176,313件（2012.1-2022.2）

国内大学19位、世界1083位、薬学・毒性学分野 国内大学11位、地球科学分野 国内大学11位、神経科学・行動科学分野 国内大学13位（クラリベイト・アナリティクス社Essential Science Indicatorsによる）

●科研費：1,054件 2,536百万円（2021実績）

●外部資金：共同研究 353件 776百万円、受託研究 305件 2,548百万円、寄附金 2,143件 1,432百万円（2021実績）

●特許出願件数：66件（2021実績）

【国際】

●交流協定校数：306機関（52か国1地域）

大学間交流協定校217機関（52か国1地域）、部局間交流協定校89機関（27か国1地域）

●外国人留学生数：643人

●海外派遣学生数：218人（2021実績）

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全てオンラインによる実績

●外国人研究者等受入数：17人（2021実績）

●日本人研究者等海外派遣数：40人（2021実績）

【医療】

●病床数：830床

●外来患者数（1日平均）：1,552人（2021実績）

●入院患者数（1日平均）：615人（2021実績）

【社会貢献】

●自治体等との協定数：36件

●公開講座数：34講座（2022）

【大学ランキング】

●Quacquarelli Symonds Ltd.

QS Asia University Rankings 2022：国内21位、アジア圏153位

QS World University Rankings 2023：世界601-650位

●Times Higher Education

Japan University Rankings 2022：国内19位

World University Rankings 2022：世界1001+位

学域・学類・研究科等

学士

学域・学類等		コース・専攻等		
融合学域	先導学類			
	観光デザイン学類			
人間社会学域	人文学類			
	法学類	公共法政策コース	企業関係法コース	総合法学コース
	経済学類	エコノミクスコース	グローバル・マネジメントコース	
	学校教育学類	共同教員養成課程		
	地域創造学類			
	国際学類			
理工学域	数物科学類			
	物質化学類			
	機械工学類	機械創造コース	機械数理コース	エネルギー機械コース
	フロンティア工学類			
	電子情報通信学類	電気電子コース	情報通信コース	
	地球社会基盤学類	地球惑星科学コース	土木防災コース	環境都市コース
	生命理工学類	生物科学コース	海洋生物資源コース	バイオ工学コース
医薬保健学域	医学類			
	薬学類			
	医療科学類	生命医科学コース	創薬科学コース	
	保健学類	看護学専攻 作業療法学専攻	診療放射線技術学専攻 検査技術科学専攻	理学療法学専攻
総合教育部		文系	理系	

大学院

研究科・専攻		コース・領域・プログラム等			
人間社会環境研究科 (博士前期課程)	人文学専攻	人間科学コース	歴史学コース	言語・文学コース	文化資源学コース
	経済学専攻	経済理論・政策コース	国際社会・経済コース	経営情報コース	
	地域創造学専攻	地域創造学コース	教育支援開発学コース		
	国際学専攻	国際関係・地域研究コース	日本語教育・日本文化研究コース		
人間社会環境研究科 (博士後期課程)	人間社会環境学専攻	人文学コース	法学・政治学コース	社会経済学コース	
自然科学研究科 (博士前期課程)	数物科学専攻	数学コース	物理学コース	計算科学コース	
	物質化学専攻	化学コース	応用化学コース		
	機械科学専攻	設計生産システムプログラム 先端材料プログラム	応用数理プログラム プロセス革新プログラム		
	フロンティア工学専攻	知能機械プログラム 人間機械共生プログラム	化学工学プログラム スマート計測制御プログラム		
	電子情報通信学専攻				
	地球社会基盤学専攻	地球惑星科学コース	社会基盤工学コース		
自然科学研究科 (博士後期課程)	生命理工学専攻	生物科学コース	バイオ工学コース		
	数物科学専攻				
	物質化学専攻				
	機械科学専攻				
	電子情報科学専攻				
医薬保健学総合研究科 (修士課程)	環境デザイン学専攻				
	自然システム学専攻				
医薬保健学総合研究科 (博士課程)	医科学専攻				
医薬保健学総合研究科 (博士前期・後期課程)	医学専攻	脳・神経医学領域 内科系医学領域	がん医学領域 外科系医学領域	循環医学領域 生殖・発達医学領域	社会環境医学領域
	薬学専攻	医薬科学			
先進予防医学研究科 (博士課程)	創薬科学専攻				
	保健学専攻	看護科学領域	医療科学領域	リハビリテーション科学領域	
新学術創成研究科 (博士前期・後期課程)	先進予防医学共同専攻	生体システム領域	代謝領域	高次機能領域	微生物・環境領域
	融合科学共同専攻 ナノ生命科学専攻				
法学研究科 (修士課程)	法学・政治学専攻	研究コース	高度専門職コース		
法学研究科 (専門職学位課程)	法務専攻	標準コース	短縮コース		
教職実践研究科 (専門職学位課程)	教職実践高度化専攻	学習デザインコース	学校マネジメントコース		

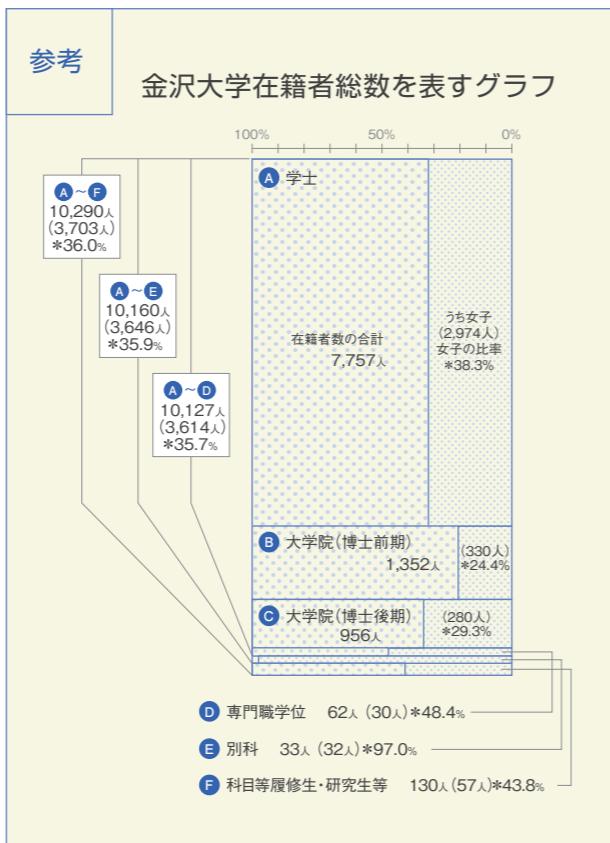
入学志願者および入学状況（学士）

令和4年度

別科		
別科	入学定員	在籍者数
養護教諭特別別科 (1年制)	人 40	人 33(32)
合計	40	33(32) * 97.0%

科目等履修生・研究生等

区分	在籍者数		
	科目等履修生	研究生等	計
学士	人 19(12)	人 24(12)	人 43(24)
大学院	3(1)	69(23)	72(24)
国際機構	0(0)	15(9)	15(9)
合計	22(13)	108(44)	130(57) * 43.8%

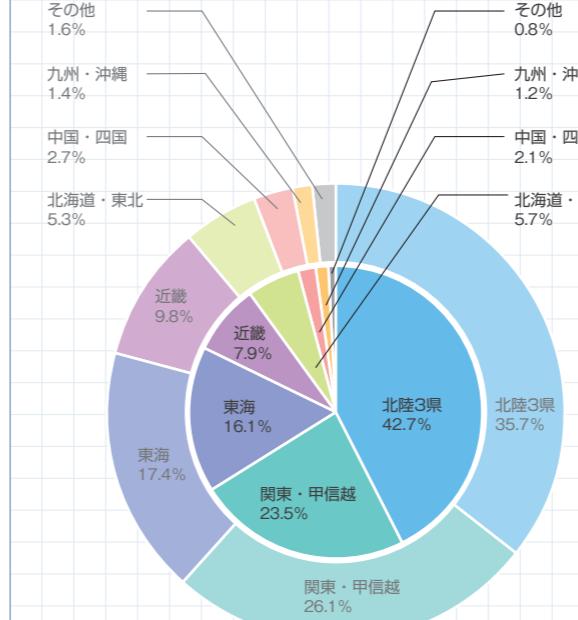


附属学校園

学校名	学級数	入学(園) 定員	収容定員	在籍者数						
				1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
幼稚園	5	満3歳入園児保育	組 24	人 120	人 3歳児	人 4歳児	人 5歳児	人 107	人 (58)	人 107 (58)
		満4歳入園児保育	24	24	24 (12)	38 (22)	45 (24)			
小学校	18 (複式) 2 (さくら) 1	90 12 4	639 24 4	90 (45)	103 (52)	103 (51)	101 (51)	107 (57)	107 (52)	611 (308) 23 (12) 1 (0)
中学校	12	160	480	159 (79)	159 (80)	154 (77)				472 (236)
高等学校	9	120	360	121 (59)	123 (65)	122 (62)				366 (186)
特別支援学校	小学部	(複式) 3	3	18	3 (1)	3 (2)	3 (2)	3 (1)	3 (0)	18 (6)
	中学部	3	6	18	5 (2)	6 (4)	7 (5)			18 (11)
	高等部	3	8	24	8 (3)	8 (3)	9 (2)			25 (8)
合計	56	451	1,687	410 (201)	440 (228)	454 (229)	117 (58)	110 (57)	110 (52)	1,641 (825) * 50.3%

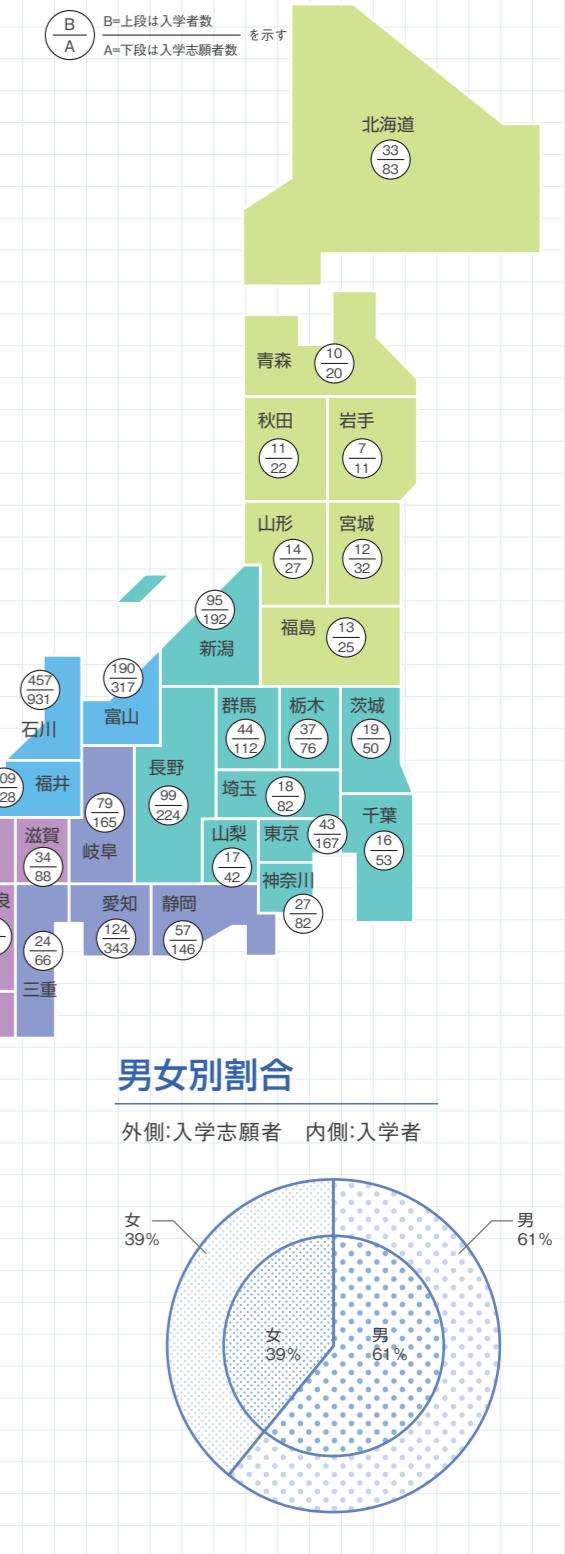
出身地別割合

外側:入学志願者 内側:入学者



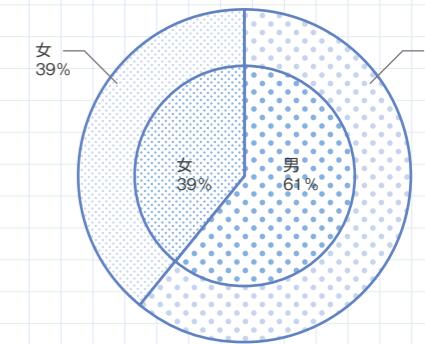
※グラフの「% (パーセント)」表記は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計値が「100%」にならない場合があります。

都道府県別数



男女別割合

外側:入学志願者 内側:入学者

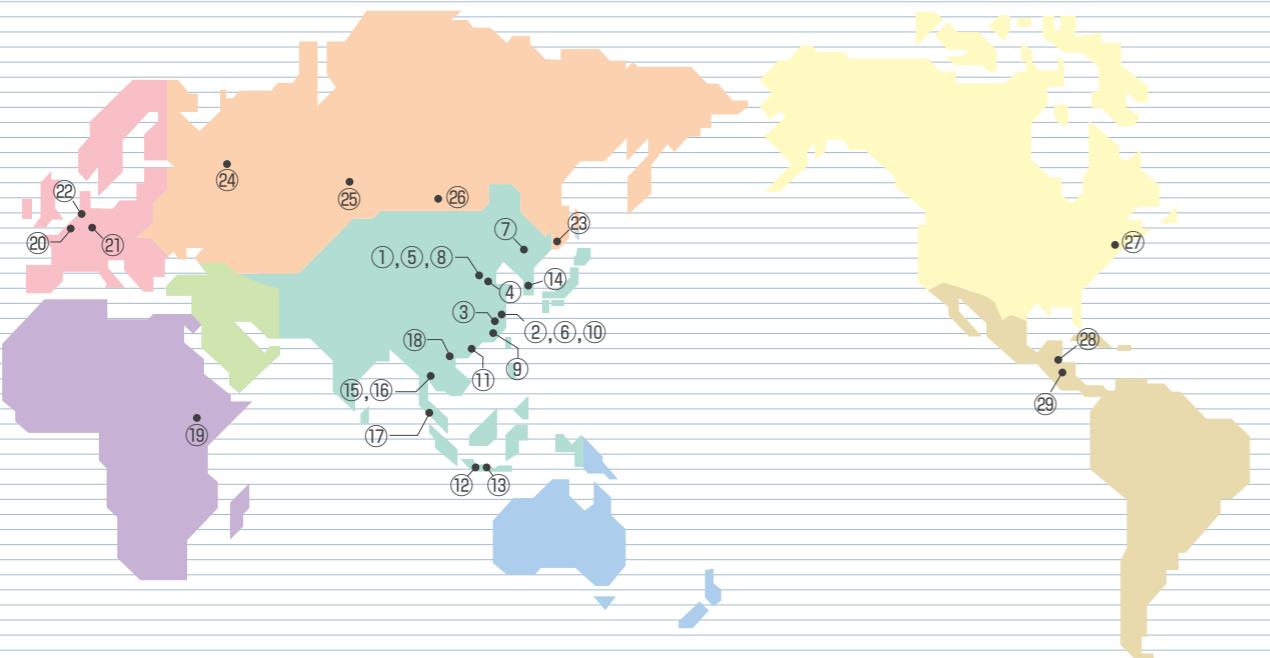


高等学校卒業程度認定試験等合格者	3 12
外国の学校等	11 49
その他（専修学校の高等課程等）	0 3

国際交流

■ 海外リエゾンオフィス

区分	国・地域名	記号	施設名(都市名)	オフィス設置場所	設置年月
アジア	中国	①	北京事務所(北京)	中国科学院大気物理研究所	H19.04
		②	上海事務所(上海)	石川県上海事務所	H20.08
		③	杭州事務所(杭州)	浙江工業大学	H21.04
		④	天津事務所(天津)	天津市生物医学研究所	H21.04
		⑤	北京事務所(北京)	北京師範大学	H21.08
		⑥	上海事務所(上海)	北陸銀行上海駐在員事務所	H21.09
		⑦	国立六大学長春共同事務所(長春)	東北師範大学	H26.11
		⑧	北京事務所(北京)	日中文化交流センター	H28.10
		⑨	福州事務所(福州)	福州大學建築学院	H29.08
		⑩	上海事務所(上海)	日中文化交流センター	R1.07
		⑪	深圳事務所(深圳)	清華大学	R2.04
インドネシア		⑫	バンドン事務所(バンドン)	バンドン工科大学	H21.04
		⑬	国立六大学スラバヤ事務所(スラバヤ)	スラバヤ工科大学	R2.12
		⑭	大田事務所(大田)	韓國地質資源研究院	H29.10
タイ		⑮	バンコク事務所(バンコク)	モンクット王工科大学	H22.02
		⑯	バンコク事務所(バンコク)	KXビル	H29.08
		⑰	PSU事務所(ハジャイ,スラタニ,ブーケット)	プリンスオブソンクラ大学	H30.11
ベトナム		⑱	ハノイ事務所(ハノイ)	ハノイ医科大学	H22.02
アフリカ	ケニア	⑲	ナイロビ事務所(ナイロビ)	ケニア中央医学研究所	H22.03
ヨーロッパ	ベルギー	⑳	ゲント事務所(ゲント)	ゲント大学	H27.05
	ドイツ	㉑	デュッセルドルフ事務所(デュッセルドルフ)	デュッセルドルフ大学	H30.09
	オランダ	㉒	国立六大学欧洲事務所(ライデン)	シーポルトハウス	H28.08
ロシアおよびNIS諸国	ロシア	㉓	ウラジオストク事務所(ウラジオストク)	ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋研究所	H20.11
		㉔	カザン事務所(カザン)	カザン連邦大学	H30.09
		㉕	クラスノヤルスク事務所(クラスノヤルスク)	クラスノヤルスク医科大学	H30.10
		㉖	イルクーツク事務所(イルクーツク)	イルクーツク国立大学	R3.10
北アメリカ	アメリカ合衆国	㉗	USA事務所(メドフォード)	タフツ大学	H28.12
中南アメリカ	グアテマラ	㉘	ティカル事務所(フローレス)	文化スポーツ省文化自然遺産副省ティカル国立公園	H24.07
	ホンジュラス	㉙	コパン事務所(コパン・ルイナス)	ホンジュラス国立人類学歴史学研究所	H29.08



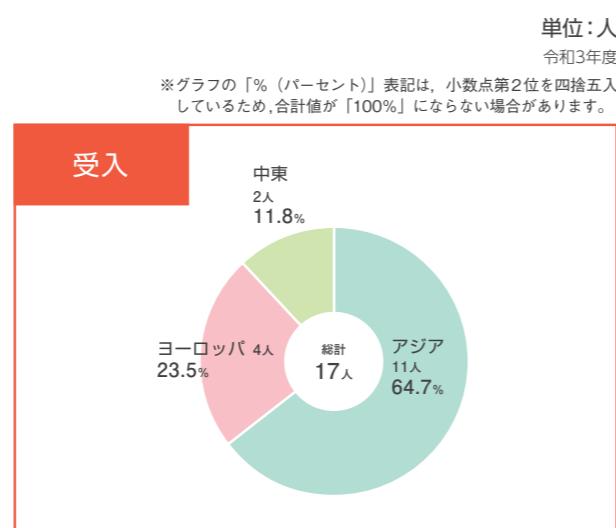
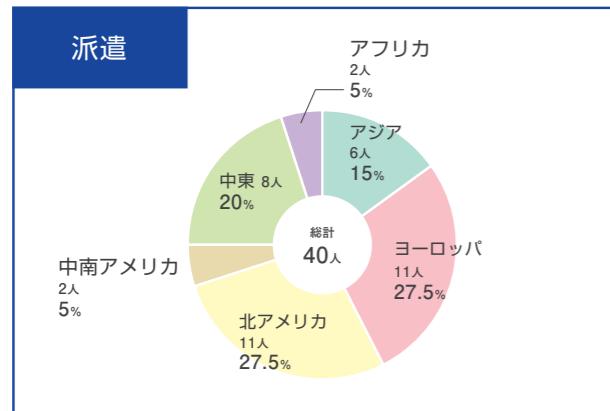
■ 大学間／部局間国際交流協定 機関分布

	アジア	中東	オセアニア	アフリカ	ヨーロッパ	ロシア及び NIS諸国	北アメリカ	中南 アメリカ	国際機関
大学間国際交流協定 217機関(52か国1地域)	125	8	6	3	35	16	12	11	1
部局間国際交流協定 89機関(27か国1地域)	55	1	3	2	20	3	4	-	1
総計 306機関(52か国1地域)	180	9	9	5	55	19	16	11	2

■ 大学間国際交流協定機関 217機関(52か国1地域)

国・地域名	協定機関名	締結年月日
国際機関	東・東南アジア地球科学計画調整委員会「CCOP」	H23.3.29
アジア	バングラデシュ ダッカ大学	H22.4.19
	チッタゴン大学	H26.10.22
カンボジア	アンコール遺跡整備公団	H22.2.9
	カンボジア工科大学	H22.2.11
	カンボジア国立経営大学	H26.2.26
中国	蘇州大学	H9.1.22
	ハルビン医科大学	H11.3.20
	北京師範大学	H11.9.14
	北京工業大学	H12.8.11
	大連大学	H13.3.8
	四川大学	H15.3.5
	大連理工大学	H15.10.21
	南京大学	H16.3.26
	延辺大学	H19.1.31
	華東理工大学	H20.11.20
	南開大学	H20.12.23
	浙江工業大学	H20.12.24
	北京語言大学	H21.3.30
	西安電子科技大学	H21.8.24
	東華大学	H22.11.1
	中国科学院地理科学・資源研究所	H23.5.3
	北京大学	H23.10.19
	上海对外经贸大学	H23.12.15
	東北師範大学	H26.11.4
	青島科技大学	H26.12.23
	上海理工大学	H27.5.25
	中国农业大学	H28.2.29
	吉林大学	H28.8.24
	同濟大学	H29.3.1
	華南理工大学	H29.3.24
	重慶大学	H29.5.18
	東北大学	H30.5.9
	南方科技大学	H31.4.22
	河南中医药大学	R1.11.26
	蘭州大学	R1.11.29
	清華大学	R3.12.20
インド	サビットリバイ・フル・ブナー大学	H11.9.1
	ティラク・マハラシュトラ大学	H25.5.7
	ナーランダ大学	H29.4.27
インドネシア	バンدون工科大学	H20.3.3
	インドネシア教育大学	H22.5.24
	スマラン国立大学	H24.9.24
	ブラウイジャヤ大学	H24.9.25
	インドネシア大学	H24.9.25
	ガジャマダ大学	H24.10.18
	国立マラン大学	H25.4.2
	インドネシアコンピューター大学	H28.1.30
	国際女性大学	H28.1.30
	バサンダン大学	H28.1.30
	エクイタス経済大学	H28.1.30
	ムルデカ大学マラン	H28.1.30
	ハサヌディン大学	H29.2.22
	ディボネゴロ大学	H29.7.25
	ブルタミナ大学	H29.11.7
ベトナム	ハノイ医科大学	H21.9.16
	ハノイ工科大学	H21.9.18
	ベトナム金融アカデミー	H21.12.4
	カントー大学	H21.12.4
	ダナン工科大学	H21.12.4
	ハノイ貿易大学	H21.12.4
	ハイフォン医科大学	H21.12.4
	ハノイ師範大学	H21.12.4
	ハノイ大学	H21.12.4
	ハノイ薬科大学	H21.12.4
	ホーチミン市医科大学	H21.12.4
	ホーチミン市教育大学	H21.12.4
	フエ大学	H21.12.4
	ニャチャン大学	H21.12.4
	ノンラム大学	H21.12.4
	タイグエン大学	H21.12.4
	タイグエン医科大学	H21.12.4
	ハノイ運輸通信大学	H21.12.4
	ベトナム国家大学ハノイ校	H21.12.4
	ベトナム国家農業大学	H21.12.4
	ベトナム国家大学ハノイ校 工業技術大学	H21.12.4
	ベトナム国家大学ハノイ校 自然科学大学	H21.12.4
	ベトナム国家大学ホーチミン市校 理科大学	H21.12.4

■研究者等交流実績／派遣および受入



■留学実績

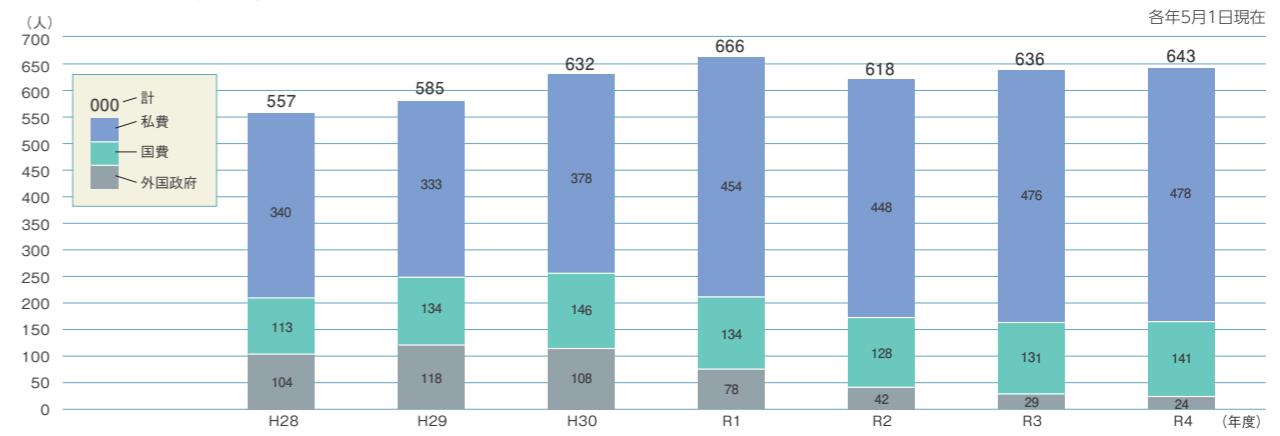
■外国人留学生受入状況の推移

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
学士	64	75	79	73	62	64	52
大学院(修士)	145	132	168	196	198	227	249
大学院(博士)	195	229	225	223	233	233	260
研究生・その他	153	149	160	174	125	112	82
計	557	585	632	666	618	636	643

■国・地域別外国人留学生受入状況

区分	国・地域名	学域学生	大学院(修士課程)	大学院(博士課程)	研究生・その他	計
アジア	バングラデシュ		4	19		23
	カンボジア		1	3		4
	中国	23	144	117	52	336
	インド		1	3		4
	インドネシア		27	43	7	77
	韓国	10				10
	マレーシア	11	2	2		15
	モンゴル	1	3	7	1	12
	ミャンマー		4	3		7
	フィリピン			2	2	4
中東	スリランカ			1		1
	タイ		28	12	1	41
	ベトナム	4	12	14	1	31
	台湾	1	8	3	4	16
	バキستان				2	3
	イラク			1		1
	イラン				1	1
	アフガニスタン				1	1
	エジプト				2	2
	カーボベルデ		1			1
アフリカ	ケニア		1	1		2
	モーリタニア			1		1
	ガンビア		1			1
	ボリビア		1			1
	コンゴ				1	1
	フランス				1	1
	ドイツ		1	2	1	4
	チェコ			1		1
	ポーランド				2	2
	スペイン				1	1
ヨーロッパ	イギリス			1		1
	スロバキア		1			1
	アゼルバイジャン				1	1
	カザフスタン				1	1
	ロシア	6	13	2	2	21
	アルメニア				1	1
	アメリカ合衆国		2	1	2	5
	中南米	2			2	4
	メキシコ			1		1
	エルサルバドル			1		1
北米	コスタリカ			1		1
	合計	52	249	260	82	643

■外国人留学生数の推移



附属病院

診療科等名	合計
消化器内科	50床
内分泌・代謝内科	20
リウマチ・膠原病内科	15
呼吸器内科	25
循環器内科	42
腎臓内科	15
血液内科	25
脳神経内科	20
神経科精神科	38
小児科	25
皮膚科	25
形成外科	5
心臓血管外科	34
呼吸器外科	28
小児外科	5
消化管外科	38
肝胆脾・移植外科	38
乳腺外科	15
整形外科	43
脊椎・脊髄外科	20
泌尿器科	40
眼科	45
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	36
産科婦人科	35
麻酔科蘇生科	1
脳神経外科	36
歯科口腔外科	7
周産母子センター	11
がんセンター	15
緩和ケア病床	2
ICU	22
NICU	6
MFICU	3
GCU	12
無菌治療室	4
RI病床	6
共通病床	23
合計	830

患者数			
診療科等名	外来 患者延数	入院	
		1日平均患者数	1日平均患者数
消化器内科	27,795人	114.9人	18,196人
内分泌・代謝内科	24,239	100.2	3,489
リウマチ・膠原病内科	13,980	57.8	5,677
呼吸器内科	17,016	70.3	9,963
循環器内科	19,020	78.6	13,210
腎臓内科	13,078	54.0	4,624
血液内科	9,307	38.5	8,266
脳神経内科	416	1.7	0
神経科精神科	7,692	31.8	6,420
小児科	16,149	66.7	8,724
皮膚科	13,857	57.3	9,700
形成外科	1,284	5.3	0
心臓血管外科	1,095	4.5	0
呼吸器外科	9,961	41.2	0
消化管外科	21,618	89.3	6,807
肝胆脾・移植外科	2,508	10.4	1,698
乳腺外科	4,332	17.9	10,737
整形外科	6,136	25.4	8,725
脊椎・脊髄外科	8,875	36.7	12,016
泌尿器科	4,886	20.2	9,654
眼科	10,753	44.4	5,180
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,382	9.8	1,282
産科婦人科	18,237	75.4	13,465
麻酔科蘇生科	5,275	21.8	5,422
脳神経外科	17,580	72.6	12,194
歯科口腔外科	32,167	132.9	10,601
周産母子センター	13,525	55.9	9,204
がんセンター	14,395	59.5	11,753
緩和ケア病床	5,753	23.8	797
ICU	6,871	28.4	9,649
NICU	1,949	8.1	936
MFICU	18,161	75.0	2,373
GCU	3,515	14.5	3,407
無菌治療室	337	1.4	0
RI病床	1,214	5.0	146
共通病床	317	1.3	0
合計	375,675	1,552.4	224,315
			614.6

外来診療日数：242日

附属図書館

施設規模・蔵書数
令和4年5月1日現在

名称	建物面積 m ²	閲覧席 席	蔵書数			
			和書 冊	洋書 冊	和洋書計 冊	雑誌 種
中央図書館	10,456	1,106	914,205	304,759	1,218,964	21,899
自然科学系図書館	5,758	694	199,723	225,129	424,852	13,001
医学図書館	3,580	394	133,419	150,961	284,380	8,402
合計	19,794	2,194	1,247,347	680,849	1,928,196	43,302

*医学図書館には保健学類図書室を含む

サービス状況

令和3年度

総開館日数	844日
	時間
総開館時間数	9,244時間
	人
入館者総数	391,304人
	冊
貸出冊数	95,547冊
	件
文献複写	369件
	件
外部から受付	2,205件
	件
外部へ依頼	2,461件
	件
学内貸借	898件
	件
図書館間相互貸借	1,208件
	件
借受	1,553件
	件

*数値は3館の合計数

学外利用者数

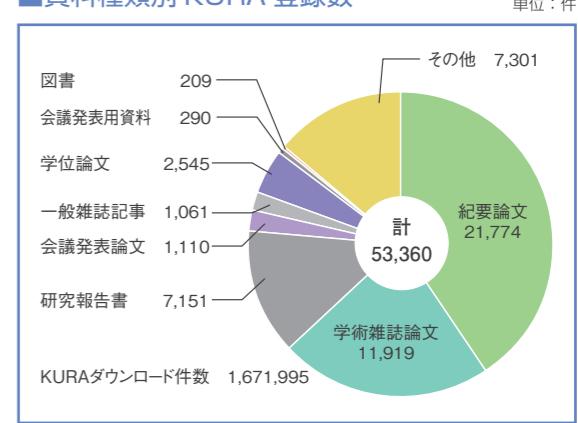
令和3年度

	学生 人	研究者 人	その他 人	合計 人
中央図書館	155	113	771	1,039
自然科学系図書館	30	8	116	154
医学図書館	8	5	147	160
合計	193	126	1,034	1,353

*医学図書館には保健学類図書室を含む

資料種類別 KURA 登録数

令和3年度
単位：件



土地・建物および所在地

キャンバス等名	土地 (m ²)	建物 (m ²)	所在地・部局等の名称	キャンバス等名	土地 (m ²)	建物 (m ²)	所在地・部局等の名称
角間キャンパス	2,008,565	257,512	<p>〒920-1192 金沢市角間町 融合学域（研究域） 人間社会学域（研究域） 理工学域（研究域） 医薬保健学域（研究域）〔薬学類（系）・医薬科学類〕 国際基幹教育院 大学院人間社会環境研究科 大学院自然科学研究科 大学院医薬保健学総合研究科〔創薬科学専攻・薬学専攻〕 大学院新学術創成研究科 大学院法学研究科 大学院教職実践研究科 養護教諭特別別科 がん進展制御研究所（CRI） ナノ生命科学研究所（WPI-NanoLSI） ナノマテリアル研究所（NanoMaRi） 設計製造技術研究所（AMTI） 高度モビリティ研究所 古代文明・文化資源学研究所 附属図書館〔中央図書館・自然科学系図書館〕 学術メディア創成センター 環日本海域環境研究センター 疾患モデル総合研究センター〔実験動物研究施設角間分室・アイソトープ 理工系研究施設・機器分析研究施設〕 環境保全センター 保健管理センター グローバル人材育成推進機構（O-GHRD） 新学術創成研究機構（InFiniti） 先端科学・社会共創推進機構（FSSI） 国際機構 ダイバーシティ推進機構 極低温研究室 資料館 技術支援センター 高大接続コア・センター 数学マネジメントセンター 教職総合支援センター 数理・データサイエンス・AI教育センター 薬学類附属薬用植物園 学生留学生宿舎「先魁」「北溟」 国際交流会館 金沢大学創立五十周年記念館「角間の里」 角間ゲストハウス 大学会館 本部棟</p>	平和町地区	79,876	22,334	<p>〒921-8105 金沢市平和町1丁目1番15号 附属幼稚園 附属小学校 附属中学校 附属高等学校</p>
				東兼六地区	10,517	4,813	<p>〒920-0933 金沢市東兼六町2番10号 附属特別支援学校</p>
				辰口地区	262,431	3,401	<p>〒923-1225 能美市松が岡5丁目163 能美学舎</p>
				小木地区	26,488	1,442	<p>〒923-1224 能美市和気町才24 環日本海域環境研究センター〔低レベル放射能実験施設〕</p>
				越坂地区	0	1,329	<p>〒927-0553 石川県鳳珠郡能登町小木 環日本海域環境研究センター〔臨海実験施設〕</p>
				潟端地区	1,489	627	<p>〒927-0552 石川県鳳珠郡能登町字越坂 理工学能登海洋水産センター</p>
				つつじが浜地区	996	439	<p>〒929-0346 石川県河北郡津幡町潟端り53 潟端短艇庫</p>
				その他	3,742	2,840	<p>〒921-8031 金沢市野町5丁目8番10号 泉学寮（男子寮）〔定員168人〕※令和5年3月閉寮</p>
					4,194	2,678	<p>〒921-8034 金沢市泉野町2丁目13番1号 白梅寮（女子寮）〔定員140人〕※令和5年3月閉寮</p>
					19,881	19,574	<p>職員宿舎</p>
					-	-	<p>〒920-0913 金沢市西町3番丁16番地 金沢大学サテライト・プラザ</p>
宝町・鶴間キャンパス	151,053	180,586	<p><宝町地区> 〒920-8640 金沢市宝町13番1号 医薬保健学域（研究域）〔医学類（系）・医薬科学類〕 大学院医薬保健学総合研究科〔医科学専攻・医学専攻〕 大学院先進予防医学研究科 附属図書館〔医学図書館〕 疾患モデル総合研究センター 〔研究基盤支援施設・実験動物研究施設・アイソトープ総合研究施設〕 子どものこころの発達研究センター 先進予防医学研究センター</p> <p><鶴間地区> 〒920-0942 金沢市小立野5丁目11番80号 医薬保健学域（研究域）〔保健学類（系）〕 大学院医薬保健学総合研究科〔保健学専攻〕</p> <p><宝町地区（附属病院）> 〒920-8641 金沢市宝町13番1号 附属病院</p>	合計	2,569,232	497,575	

キャンパス等

キャンパス等

建物配置図

角間キャンパス

※各施設の記号はキャンパス内に設置している案内板に対応

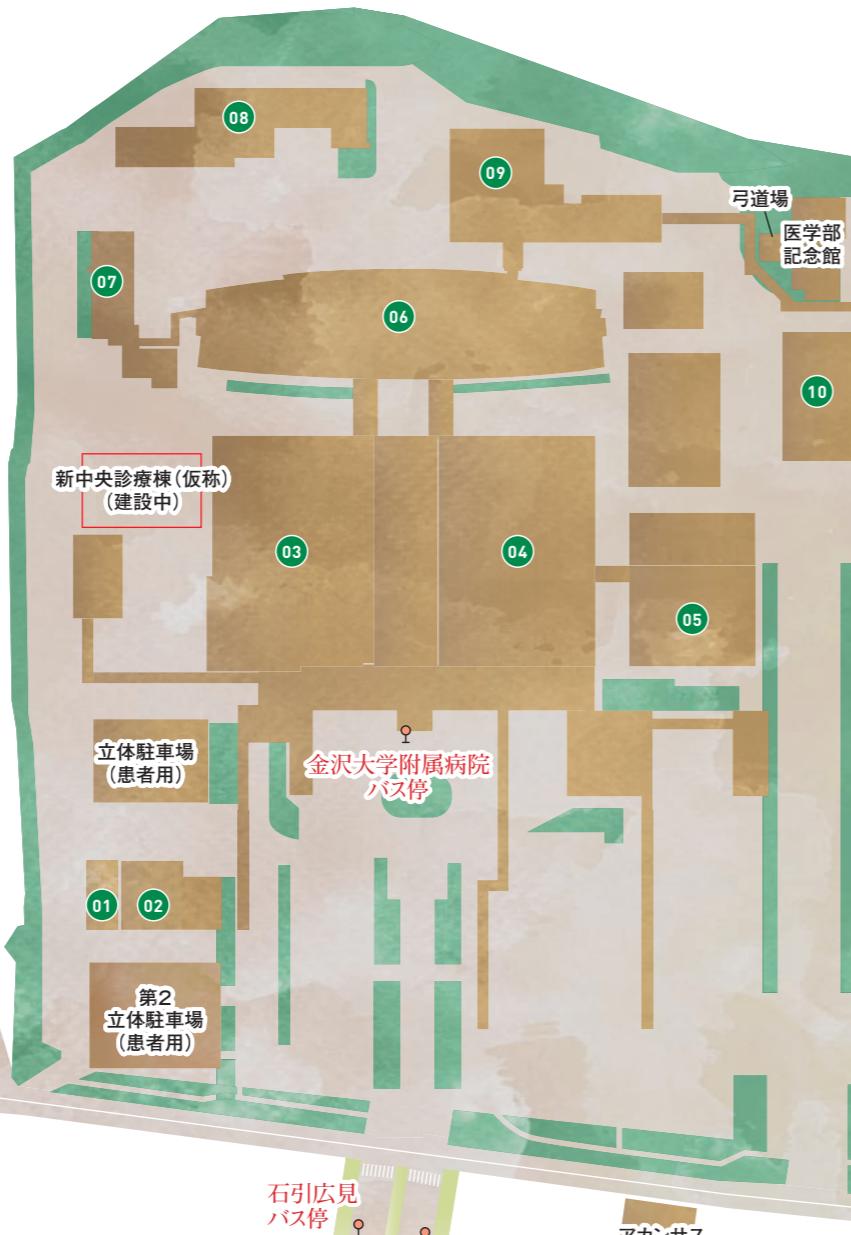


建物配置図

宝町・鶴間キャンパス

宝町地区

- 01 先端医療開発センター
 - 02 アネックス棟
 - 03 中央診療棟
 - 04 外来診療棟、
金大病院CPDセンター
 - 05 医学類C棟
 - 06 病棟(西病棟／東病棟)
 - 07 MRI-C T棟
 - 08 看護師宿舎
 - 09 北病棟
 - 10 十全講堂
 - 11 医学類A棟
 - 12 医学類B棟
 - 13 医学類病理標本庫
 - 14 医学図書館
 - 15 医学類D棟
(全学共用教育研究棟)、
子どものこころの発達研究センター、
先進予防医学研究センター
 - 16 ★研究基盤支援施設
 - 17 医学類解剖標本庫
 - 18 ★実験動物研究施設
 - 19 医学類E棟
 - 20 医学類教育棟
 - 21 医学類F棟
 - 22 医学類旧書庫
 - 23 医学類G棟
 - 24 ★アイソトープ総合研究施設
 - 25 医学類福利施設
 - 26 課外活動施設
- ★疾患モデル総合研究センター



至鈴見



鶴間地区

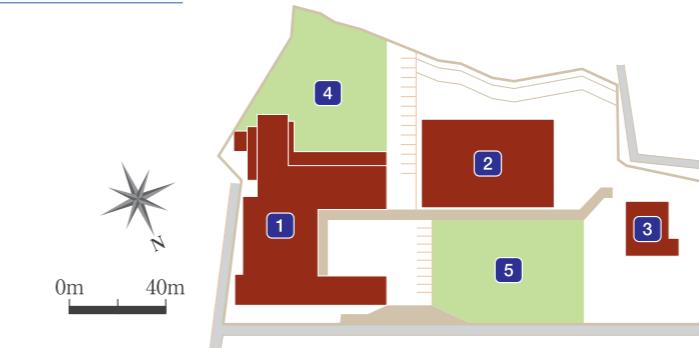
- 1 保健学類1号館
- 2 保健学類2号館
- 3 保健学類3号館
- 4 保健学類4号館
- 5 保健学類5号館
- 6 体育館
- 7 保健学類福利施設

平和町地区



- 1 附属幼稚園
- 2 附属小学校
- 3 附属中学校
- 4 附属高等学校
- 5 附属学校事務
- 6 体育館
- 7 運動場
- 8 テニスコート
- 9 プール
- 10 附属高校創立60周年
記念館「有朋館」
- 11 武道場

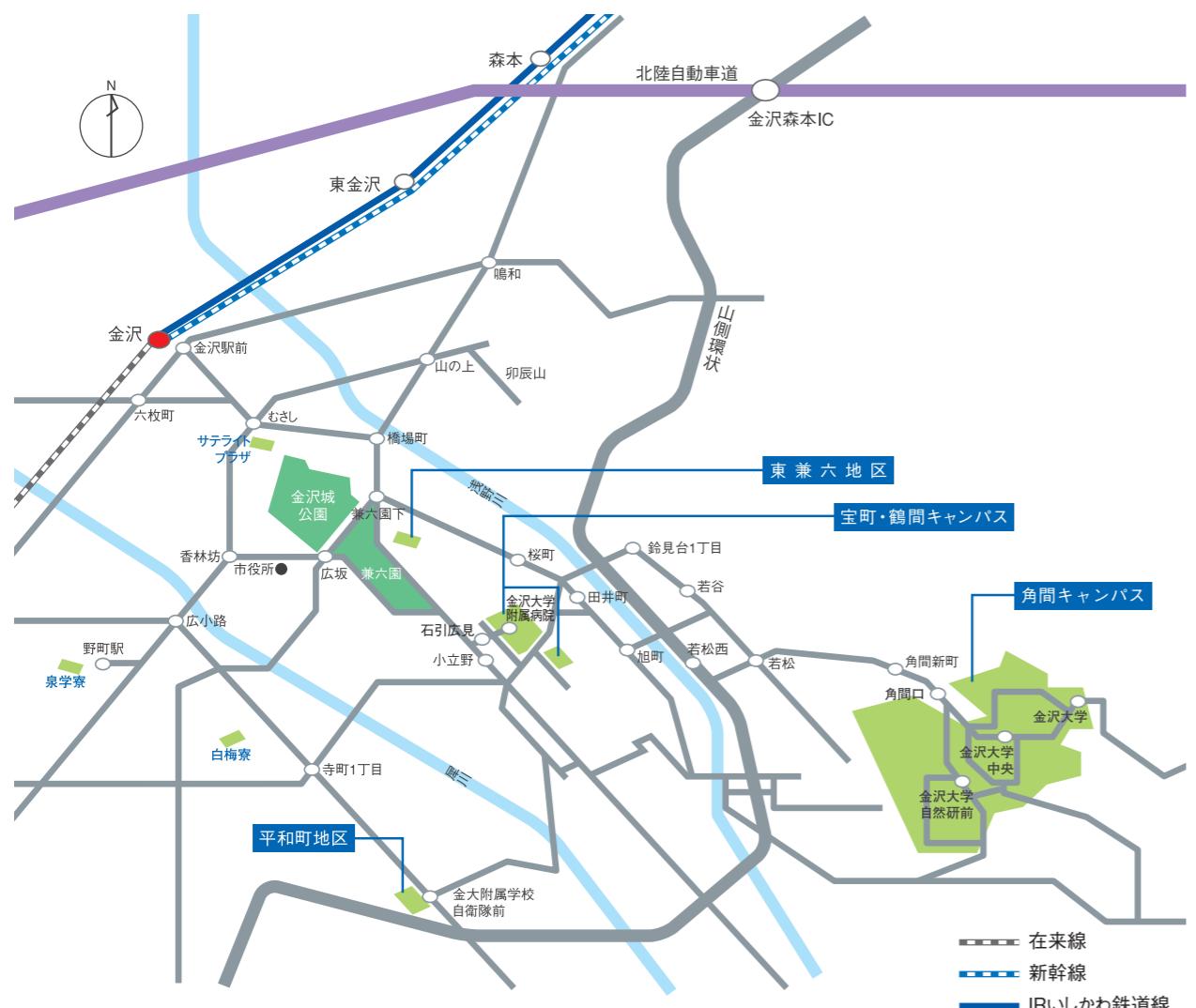
東兼六地区



- 1 附属特別支援学校
- 2 特別支援学校体育館
- 3 すずかけの家(日常生活訓練施設)
- 4 運動能力育成施設
- 5 運動場

キャンパス位置図

金沢市内



東京方面から金沢へのアクセス

- 航空機利用
羽田空港→小松空港 所要約1時間
(小松空港→金沢駅は北陸鉄道バスで約1時間)

- JR利用
東京→金沢 新幹線かがやき 所要約2時間30分
新幹線はくたか 所要約3時間

名古屋方面から金沢へのアクセス

- JR利用
名古屋→金沢 新幹線,特急しらさぎ 所要約2時間40分

大阪・京都方面から金沢へのアクセス

- JR利用
大阪→京都→金沢 特急サンダーバード 所要約2時間40分

金沢駅から主要キャンパスへのアクセス(北陸鉄道バス利用の場合)

- 角間キャンパス
<「金沢大学自然研前」,「金沢大学中央」,「金沢大学(角間)」>まで
所要約35分

金沢駅兼六園口(東口)⑦乗場→93 94 97「金沢大学(角間)」行

- 宝町・鶴間キャンパス「小立野」バス停下車まで 所要約20分

金沢駅兼六園口(東口)⑥乗場→11「東部車庫」行など

金沢駅兼六園口(東口)⑦乗場→13「湯谷原・医王山」行など

金沢駅金沢港口(西口)⑤乗場→10「東部車庫」行など



金沢大学校歌



「金沢大学校歌」の制定

室生犀星作詞のこの校歌は、金沢大学の看板のひとつです。1959年（昭和34年）の創立10周年事業として作されました。当初、「歌詞は職員・学生から懸賞募集し、作曲は専門家に依頼する」という計画でしたが、評議会で異論が出たため、作詞・作曲とも専門家に任せることになりました。同年4月18日、戸田学長が犀星に作詞を依頼、また犀星からの要請で作曲は信時潔に依頼しました。依頼から一箇月ほどして校歌が大学に届けられました。

https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/history_song/



2022年8月発行

【編 集】
金沢大学総務部広報室

【所在地】
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL.076-264-5024 FAX.076-234-4015
<https://www.kanazawa-u.ac.jp/>



2022.8.2800